

## 第 34 回札幌市感染症対策本部会議 会議録

日 時：令和 4 年 2 月 10 日(木)15 時 30 分～16 時 00 分

場 所：本庁舎 18 階 第二特別委員会会議室

出席者：別紙座席表のとおり

### 【危機管理対策室長】

それでは定刻となりましたので、ただ今から第 34 回札幌市感染症対策本部会議を開催いたします。危機管理対策室の荻田です。

新型コロナウイルス感染症の現下の感染状況などを踏まえまして、今後の対応等について本部長であります秋元市長からご指示をいただくため、本日の会議を開催いたします。

初めに、会議次第の「(1)札幌市における感染状況等について」です。保健福祉局の栗崎局長、説明をよろしくお願いたします。

### 【各本部員（各局局長職）】

(保健福祉局 資料あり)

健康安全担当局長の栗崎でございます。私の方から「札幌市の感染状況について」ご説明を申し上げます。

1 ページをご覧ください。新規感染者数につきましては、昨日 2 月 9 日時点の 1 週間の合計は 12,986 人、10 万人当たりの新規感染者数は 662.0 人となっております。また、3 日前の 2 月 7 日の 1 週間の合計が 13,205 人、人口 10 万人当たりでは 673.18 人となっております、これまでの最高となっており、現在も同水準の感染拡大が続いている状況であります。

直近の 1 日の新規感染者数は、前週の同じ曜日と比べて減少はしておりますけれども、依然として 1,000 人を上回る高い数値でありまして、危機的な状況が続いております。

次に 2 ページをご覧ください。札幌市民の入院患者数の状況などについてご報告をいたします。入院患者数は昨日時点で 288 人、医療への負荷が高まっております。

なお、2月8日は前日からの大幅な増加が見られますが、医療機関からの報告等の整理に時間を要し、まとめて計上したため、実態としましては、1日で増加したわけではなく、数日間で増加したものであります。また、重症患者数につきましては、ゼロが続いていたところではありますが、昨日時点では2人となっております。病床の詳細な状況につきましては、この後、医務監からご報告させていただきます。

自宅療養者数は5,646人、宿泊療養者数は58人となっております。療養者への対応につきましては、新規感染者の急増によりまして、陽性が判明した方へのご連絡が遅れていることから、これに対応するため、療養判定アプリ（こくちまる）を2月から導入し、できるだけ早くご連絡をするよう努めているところであります。詳細につきましては、後ほど、あらためてご報告させていただきます。

次に3ページをご覧ください。検査数についてであります。直近1週間の検査数は30,118件、これまでにない30,000を超える規模での実施を継続しております。陽性率は、昨日時点で43.1%と高い率となっております。

次に4ページをご覧ください。年齢別の感染者についてであります。50歳以下で約9割を占めており、特に10歳代以下だけで3割を超えております。子どもへの感染の広がりにより、休園や学級閉鎖などが多数発生しておりまして、休まざるを得ない医療従事者などが増加しております。

また、70歳以上の高齢者につきましては、割合は低いものの、1日平均の実人数では100人以上の新規感染者が発生しておりまして、医療への負荷が懸念されるところであります。

次に5ページをご覧ください。集団感染事例の発生件数についてであります。感染者数の急増に伴いまして、感染時の重症化リスクの高い方が多い病院や福祉施設での集団感染への対応に重点化しているところでありますが、それでも件数は急増している状況であります。

まず、病院につきましては、複数のコロナ陽性者の入院受入医療機関におきまして、クラスターが発生をしているところであります。また、高齢者施設におけるクラスターの多発等によりまして、介護が必要な陽性患者も増加しており、大変厳しい状況となっているところであります。

次に6ページをご覧ください。病院や高齢者施設のクラスターの状況を比較しますと、1月9日から2月8日の第6波の直近1カ月で見ますと、50施設でクラスターが発生をしております、これまで最多でありました第4波のピークの45施設をすでに上回っているところであります。

さらに、5人以上のクラスターには至っていないものも含めると、1月9日から2月8日の1日当たりの平均では、陽性者が発生している施設が約120施設ありまして、その施設への感染拡大防止のため、オンラインや訪問などにより、対応を進めておりますが、第4波では新規感染者のピークから遅れてクラスターのピークが来ているということからも第6波でも、今後さらに増加をしていくことが危惧されるところであります。

また、先ほど4ページでもご説明したとおり、子どもの感染が急拡大をしております、2月2日から2月8日までの直近1週間では、10歳未満の感染者数は2週間前の4.3倍、2,350人に増加をしているところであります。加えて、クラスターも含めまして、ハイリスクの高齢の感染者数も増加をしております、後ほど医務監からもご報告がありますが、医療機関への負荷が大きくなっておりますことから、コロナ以外の一般診療や救急医療への影響が危惧される状況となっております。

次に7ページをご覧ください。市内中心部の人出についてグラフにしたものであります。まず、朝9時の札幌駅と大通駅周辺の状況につきましては、減少傾向が見られますけれども、すすきの駅周辺は横ばいで推移をしております。

次に8ページであります、夜8時の状況でありますけれども、減少が続いております、特にすすきの駅周辺の減少が大きく、1月中旬頃と比べますと、7割以下までに減少しているところであります。

私からは以上でございます。

#### 【危機管理対策室長】

続きまして、保健福祉局の館石医務監、説明をよろしくお願いいたします。

【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料あり）

保健福祉局医務監の館石です。ただ今の栗崎局長の説明と一部重複いたしますが、私からは、医療提供体制についてご報告させていただきます。

資料は「入院受入病床の状況」をご覧ください。2月9日時点における入院患者数は、市外からの患者含めると300人、直近の実質的な入院受入可能病床数は524床であり、病床使用率は実質57.3%となります。

特に高齢（要介護）の入院患者数については、前回の対策本部会議（第33回感染症対策本部会議）の1月26日時点では33人でしたが、昨日2月9日時点では129人と大幅に増加し、高齢者のための病床使用率で見ると95.6%に達しており、すでにひっ迫した状況となっています。オミクロン株による市内の感染状況は急拡大しており、新規陽性者数の高止まりとともに、入院患者数も増加し、危機的な状況が続いています。

次の資料「中和抗体薬（点滴薬）・経口薬の治療実績」をご覧ください。市内の入院受入医療機関と連携のもと、早期に投与すれば、ハイリスク患者の重症化を防ぐ効果が期待できる中和抗体薬（ゼビュディ）や抗体カクテル療法（ロナプリーブ）を積極的に活用してきました。特にゼビュディについては、オミクロン株にも効果が認められていることから、入院受入医療機関での投与実績が伸びています。中和抗体薬による治療実績としては、7月末から2月7日までに合計812人の患者に投与されています。医療機関からは治療効果を実感する声が多数寄せられており、重症化予防に十分な効果が見られているところです。

次に、経口治療薬（ラゲブリオ）の処方体制についてですが、現在37の入院受入医療機関において院内処方が可能となっています。また、経口薬の院内処方に対応できる対応薬局を市内243カ所に拡大し、すでに在庫も確保しているところです。経口薬の治療実績としては、12月末から2月7日までに合計354人の患者に投与されており、投与後、数日で解熱効果、咳や咽頭痛などの症状が改善したとの報告が寄せられています。

医療現場への負荷を軽減するためにも、引き続き、中和抗体薬や経口治療薬を積極的に活用し、重症化を予防する取り組みを進めていきたいと考えていま

す。

次の資料「入院患者の重症度ごとの年代別割合」をご覧ください。まず一番右の表です。緑色の全体の年代別割合をご覧ください。上段の1月21日時点では、ピンク色の部分、70代以上の高齢者の入院患者割合は28.6%でした。下段の2月7日時点では、70代以上の高齢者の入院患者が62.4%となっており、患者数で見ると、1月21日の34人から、2月7日には174人と約5倍になり、高齢の患者の増加が顕著となっています。

また、中等症を見ると、2月7日時点で70代以上の高齢者が77.4%と大半を占めている状況です。患者数で言いますと、1月21日には70代以上は5人でしたが、2月7日時点では65人と13倍になっています。

次の資料「入院受入医療機関における従事者の実態アンケートの実施」をご覧ください。現在、オミクロン株の感染拡大の影響が、医療現場にも及ぼし、多くの入院受入医療機関において医療従事者が出勤できないケースが増えています。保育園が休園となったため、職員が育児のために出勤できず、病床はあっても稼働できないケースが生じています。

そこで今回、医療現場の実態を把握するためのアンケート調査を実施しましたのでここで報告いたします。中段の表に示すように、医師や看護師などの医療従事者が陽性、あとは濃厚接触者となるケースは、回答のある27医療機関の約9割において発生しています。

また、従事者人員における病院の運営状況は下の部分になりますが、回答が問題なしは約2割、やや厳しいが4割、かなり厳しいが4割となります。医療従事者が欠勤せざるを得ない事態が数多く発生していますが、多くの入院受入医療機関では、人員検査による濃厚接触者の始業前の陰性確認や、他の病棟からの応援などの人員確保策により、こうした事態に対応している状況です。

次の資料「医療提供体制の現状について」をご覧ください。この資料は、現在の札幌市の医療体制が直面している厳しい状況をまとめたものです。数字上は入院受入病床に余裕があるように見えるにもかかわらず、実際には病床がひっ迫している要因として、現在、市立札幌病院をはじめ、複数の入院受入医療機関においてクラスターが発生しており、入院受け入れが制限されている中で、高齢者施設でも多数のクラスターが発生し、高齢（要介護）の患者が増加して

いることが挙げられます。

また、医療従事者自身が感染して、陽性患者となるケースや同居家族の感染により濃厚接触者となるケースのほか、先ほど申し上げた保育園の休園などにより子どもの世話のために欠勤せざるを得ないという事態も発生しています。

このほか、昨年末から雪道での転倒骨折や発熱等の症状のある傷病者が増えており、コロナ患者以外の一般救急患者の入院受入困難事例も増加しているところです。このように現在、入院受入病床が見かけの病床使用率よりも遥かにひっ迫した状況となっていることから、市民の皆さまには、いま一度、マスクの着用、頻回の手洗いと手指消毒、3密の回避など基本的な感染対策を徹底するよう、あらためてお願いいたします。

私からは以上です。

#### 【危機管理対策室長】

続きまして、会議次第の「(2) 札幌市における取組について」に入らせていただきます。栗崎局長、説明をよろしくお願いいたします。

#### 【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料あり）

まず、「療養判定アプリ（こくちまる）について」という資料をご覧ください。陽性が判明した方への対応状況についてご説明を申し上げます。

これまでは陽性が判明した方へ電話により症状をお聞きし、自宅療養や宿泊療養、入院といった療養判定を行い、その結果をお知らせしてまいりました。ただ、この第6波の感染急拡大に伴いまして、保健所では職員の応援体制を強化して対応してまいりましたが、毎日2,000人の陽性者が確認される状況の中では、作業が追いつかず、通常よりもかなり時間を要する状態となり、不安な思いでご連絡をお待ちいただくざるを得なくなっています。

そこで、電話対応を行う職員の増員では限界があることから、療養判定に新たなアプリ「こくちまる」を2月から導入することになりました。このアプリは療養中の健康観察アプリとしてすでに導入をしております「こびまる」をベースに、札幌医科大学の小山先生を中心に急遽開発をいただいたもので、2月

9日までに約13,000人の療養判定を実施し、スピードアップを図りつつあるところであります。

具体的には、これまでは電話で療養判定を行っていたため、1人当たり30分から40分、長いときには1時間程度、聞き取りに時間がかかっていたところであります。それに代わりまして、最初に電話で陽性であること、それから、ショートメッセージでアプリをお送りすることのみをお伝えして、その後、健康状態の詳細等につきましては、アプリでご本人に入力をしていただくことで自動化をすることで、電話自体は5分程度に短縮して療養判定を行うような流れになっております。

ご本人の入力内容から重症化リスクが低いと判断される方につきましては、そのまま自宅療養に移行することができ、リスクのある方の療養判定については再度、電話で聞き取ることが可能となります。

また、自宅療養、宿泊療養の方には、これまで同様、健康観察アプリ「こびまる」で健康観察のモニタリングを継続し、必要なときには速やかに医療につなげていくことにしております。

さらに、「こくちまる」への入力の際に、あらかじめパルスオキシメーターの貸し出しや自宅療養時の食料の希望なども確認しておりますことから、これまでよりも早いタイミングで送付につなげることができることとなったものであります。

連絡が遅くなっておりましたことから、お待ちいただいている方々にはご心配をお掛けしておりますが、現在、順次スピードアップしてご連絡を進めているところであります。引き続き、新規感染者が急増するにあたって、必要な方々へ必要な医療へのアクセスをしっかりと確保できるよう努めてまいります。

また、食料の配送につきましては、大雪の影響により時間を要している面もあり、この点につきましてはご理解をお願いしたいと考えております。これまでも災害時に備え、3日分の食料などの備蓄をお願いしているところでありますが、市中で急速に感染が広がっており、いつご自身が感染してもおかしくない状況にありますことから、あらためて日頃からの備蓄につきましては、各ご家庭でご準備をお願いしたいと思います。

それから、次の資料「ワクチン追加接種（3回目接種）の前倒し対応につい

て」をご説明させていただきます。ワクチンの追加接種につきましては、国からは予約に空きがあれば、年齢に関わらず、6カ月前倒すことが可能であるという方針が新たに示されておりまして、前回の本部会議、1月26日にご報告した内容から、さらに前倒しを行う体制が整ったことから、その点についてご報告をさせていただきます。

②の医療従事者以外の高齢者につきましては、3月から6カ月前倒す予定でありましたが、これを2月中旬に前倒すことといたしました。

また、③の18歳から64歳以下の一般の方につきましては、3月から7カ月に前倒す予定でありましたが、7カ月の前倒しの時期につきましては、2月中旬に実施をすることとし、さらには2月下旬からは6カ月前倒しをすることといたしました。なお、接種券につきましては、追加接種が可能となる接種間隔に到達する日の前にお手元にお届けいたしますので、届き次第、予約が可能となります。

また、基礎疾患を有する方やエッセンシャルワーカーなど、1、2回目の接種の時に、いわゆる優先接種として、早めに接種した方々につきましても、全体を6カ月前倒すことによりまして、早い方は2月下旬から順次接種できることとなっております。

次に下段の方ですけれども追加接種会場の開設の前倒しについてご報告いたします。接種時期を全体に前倒すことに伴いまして、3月に開設する予定でありました「札幌サンプラザ会場」について、2月22日に前倒しして開設をすることといたしました。札幌駅の北口から無料シャトルバスを運行いたしますので、接種の際はぜひご活用いただきたいと思います。

次のページをご覧ください。追加接種の効果等につきましても、厚生科学審議会などで示されている資料の中から、いくつかご紹介をさせていただきます。まず、オミクロン株への効果ということですが、発症予防効果につきましては、2回目接種後、徐々に効果が低下しておりますものの、追加接種を行うことにより、65%から70%に回復することが報告をされています。お手元の資料にはございませんが、札幌市のデータからも感染予防に一定の効果があるとの結果が得られているところであります。また、入院予防効果につきましても、追加接種後は89%と高い効果が報告をされております。



さらに下段の方ですけれども、1、2回目と異なるワクチンを接種する、いわゆる交接種につきましても、副反応について、1、2回目接種と同程度であることや交接種の安全性などについて報告がなされております。

特にモデルナワクチンに関しましては、アメリカの疾病対策センター（CDC）によりますと、2回目接種と比較して、副反応の発現割合は低いと報告されております。

なお、追加接種で使われるモデルナワクチンは1、2回目接種で用いた量の半分の量であることをあらためてご報告させていただきます。

私からは以上でございます。

#### 【危機管理対策室長】

続いて、館石医務監、説明をよろしくお願いいたします。

#### 【各本部員（各局局長職）】

（保健福祉局 資料あり）

それでは資料「経口治療薬の処方体制の強化」をご覧ください。早期に服用することで重症化予防効果が期待できる経口治療薬について、札幌市では処方体制の拡充を進めております。

国内初の経口治療薬として、薬事承認されたラゲブリオについては、年度内に60万回分の供給が予定されており、現在37の入院受入医療機関で院内処方が可能となります。また、発熱外来など205のクリニック等でも院外処方が可能となっているところです。経口薬の処方に対応できる対応薬局ですが、現在243カ所まで拡大しています。

今回、新たな経口薬として、パキロビッドが2月中旬から実用化の見込みとなり、薬事承認後には200万回分の供給が予定されています。このパキロビッドの臨床試験では、入院や死亡のリスクは約9割低下し、オミクロン株にも有効とされています。パキロビッドの処方についてはすでに整備してきた、ラゲブリオの処方体制を活用可能とされており、感染が拡大しているオミクロン株対策としても積極的に活用してまいりたいと考えております。

**【危機管理対策室長】**

続いて、子ども未来局の山根局長、説明をよろしくお願ひいたします。

**【各本部員（各局局長職）】**

（子ども未来局 資料あり）

子ども未来局でございます。私からは「保育士向け抗原定性検査無料検査所の開設について」という資料に沿って説明をさせていただきます。

まず一つ目に開設の目的についてであります。保育士を含むエッセンシャルワーカーの方々につきましては、抗原定性検査キットによる検査で2度陰性だった場合は、5日目から待機解除を認める取り扱いとなっているところでございますが、下段にあるとおり、現在、市中において検査キットの入手が困難となっている状況から、下記のとおり札幌市において、今週から検査場を開設したところでございます。

2番の開設期間をご覧ください。開設は今週の月曜日2月7日から今月2月28日までを予定しております。

3番の検査体制についてです。開設時間は月曜日から日曜日まで毎日午前9時から午後5時30分までといたします。検査枠としましては、最大1日当たり49件の検査が可能となります。検査の対象となる施設につきましては4番に記載のあるとおりでございます。

5番、その他の一番下でございますが、2月7日開設から3日間で約40人、1人当たり2度検査されますので、約80件の検査の利用があったところでございます。

報告については以上です。

**【危機管理対策室長】**

その他、説明のある方いらっしゃいますでしょうか。

いらっしゃらないようですので、それでは本部長であります秋元市長からご指示をいただきたいと思います。

秋元市長よろしくお願ひいたします。

【本部長（秋元市長）】

まん延防止等重点措置の適用から2週間が経過をいたしました。今も市内の新規感染者数は、4桁を超える日が続いておりまして、過去最大規模の感染拡大という状況になっております。

この間、市民や事業者の皆さまには、多大なご理解とご協力をいただいておりますことに感謝申し上げたいと思います。特に、札幌市医師会をはじめ、医療関係者の皆さまには感染者が急激に増える中、懸命にご対応いただいておりますことをあらためてお礼申し上げます。

市内の感染状況であります、依然として若年層の割合が高いものの、高齢者の感染者数も確実に増えており、とりわけ、医療機関や高齢者施設における集団感染が過去最大でありました第4波のピークを上回る状況となっており、介護が必要な陽性者も増加をしているという状況であります。

加えて、先ほど報告にもありましたように、医療提供体制が極めて困難な状況に直面しており、今後、救急医療や一般医療にも悪影響を及ぼすということが懸念をされます。

この勢いで、感染拡大が続きますと、医療分野のみならず、交通機関やライフライン、その他、生活に直結する幅広い分野にまで影響が広がり、社会経済活動が立ち行かなくなる最悪の事態に見舞われることも懸念をされるところであります。

こうした状況の中、ご自身や大切なご家族、ご友人の健康と生活を守り抜くためには、一人一人がいま一度、感染対策を徹底するとともに、オミクロン株への有効性が確認をされております、3回目のワクチン接種が非常に重要となりますので、市民の皆さまにおかれましては、早期の接種について、ぜひともご検討をお願い申し上げます。

オミクロン株による感染拡大を見据えて、全庁挙げて、保健所の体制を強化してきたところでありますが、想定を超える急拡大に一部の対応が追いつかないという状況で、市民の皆さまにはご心配をお掛けしている状況であります。

現在、療養判定アプリ、先ほど報告にもありましたように「こくちまる」というアプリの導入によって、業務の迅速化を図り、現状の感染規模にも対応し得る体制の構築を進めているところでありますが、今後とも重要な医療へのア

クセスを確実に確保し、市民の皆さまのコロナへの不安を払拭するために、万全の体制を整えるよう、指示をいたします。

保健所においては、業務の効率化・迅速化を図っているところではありますが、新規感染者がさらに拡大をしても対応できるよう、相談、検査、告知、療養に至る一連の流れに遅れが生じない体制を確立するとともに、医療機関と連携して、外来診療や在宅医療などの体制整備をあらためて進めること。

重症化リスクの高い高齢者などの感染が増加傾向にあることを踏まえ、医療機関の入院受入体制の強化や経口治療薬の処方体制の整備など、重症化予防対応のさらなる整理に取り組むこと。

ワクチンの追加接種のさらなる促進を図るため、接種券の送付や接種場所の確保など準備を継続して進めるとともに、オミクロン株への有効性や交差接種の安全性、副反応などに関する正しい情報を丁寧に発信することで、市民の皆さまに安心して接種していただけるよう取り組むこと。

以上を指示します。

#### 【危機管理対策室長】

各局におかれましては、ただ今の本部長指示を踏まえ、今後の対応よろしくお願いたします。

それでは以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

どうもありがとうございました。